

# 黒埼町の今昔

町史編さん課

## トマト作りこと始め 大正時代、近隣に先駆けてトマ ト栽培を成功させた斉藤慶蔵

大正七年、源吾少年生まれ  
て初めてトマトを見る  
今から七十年ほど前、大正  
七年ごろの話。ある夏の昼下  
がり合子ヶ作小学校(山田小)  
二年生の鈴木源吾少年(善久)  
は下校の途中、同級生の斉藤  
ムツ(西山田)に呼びとめら  
れた。「トマトを上げるから  
きて」というのだ。二人は学  
校で机を並べている仲良しだ。  
源吾はムツについて行った



大正中期、まだ食用より観賞用だったトマトを食べ、ほき出す源吾少年

が、まだ「トマト」を知らな  
かった。ムツの家の畑には自  
分たちの背より高い今まで見  
たこともない野菜の木が、篠  
竹を手にして何十うねも植え  
られていた。青々とした葉を  
繁らせ、茎の下の葉の間には  
みかんや玉ねぎのような形を  
した赤い実がぶら下がるよう  
になっていた。

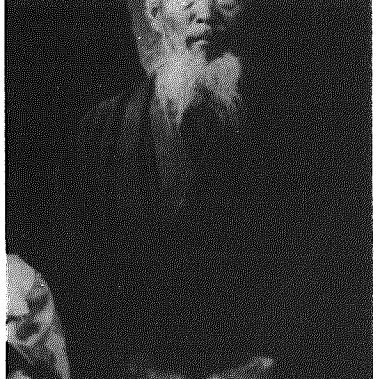
「ムツはその中から赤くなっ  
た小さなおにぎりぐらゐの実  
を二つもぎ取っ  
て一つを源吾に  
差し出し「これ  
がトマトよ」と  
言った。指で押  
すとぐにやりと  
へこんで汁が出  
て、青臭い臭い  
がした。源吾は  
あまり気が進ま  
なかったが、ム  
ツが勧めるので  
一口かんでみた。  
すると、なんと  
も言えない変な  
味で、ほき出し  
てしまった。

夕食のとき、源吾は家の人  
にトマトの話をした。父は「ぜ  
ひトマトを見たいものだ」と  
言った。翌日、源吾はムツに  
頼んでトマトを家に持って帰  
り父に見せた。「ほお、これ  
がトマトというのか!」  
これが、大正時代源吾家ト  
マト発見のエピソードである。  
トマト作りの先駆者・斉藤  
慶蔵

大正中期のトマト栽培は、  
黒埼近隣の村人にとって画期  
的なものだった。ムツの父、  
斉藤慶蔵さんは先駆者といえ  
る。斉藤さんは明治五年合子  
ヶ作村の西部落(西山田)の  
家号吉之丈家に生まれた。明  
治十二年ごろから信濃川をわ  
たつて対岸の大島小学校に通  
った。(当時、合子ヶ作には  
まだ学校がなかった。合子ヶ  
作小学校が出来たのは明治  
十六年十二月である)大島校  
卒業後、どこかの小学校の助  
手を勤めたと伝えられている。  
斉藤さんの青年期については  
よくわからないが、大正四

年ごろ、農業技術者を志して  
県の長岡農業試験場に入所し  
一か年の修業を経て農業技術  
員の資格を取得した。  
大正四年といえは斉藤さん  
は四十三歳ごろで、当時の社  
会通念からしてこの歳に達す  
れば、農家はもう隠居を考え  
る年齢である。慶蔵さんの次  
男(ムツの弟)にあたる山田の  
斉藤實治さんは「父がああ歳  
になつて農事試験場へ入所し  
たことは、今でも驚きととも  
に感心させられる」。

「この赤いなんだネー」  
「赤ナスだがネ」  
「どんなにして食べるんだネ」  
「きざんでソースかけて食  
べるんだがネ」  
「ほうソースってなんだネ」  
「ソースはアメリカのしょ  
う油のようなものだがね」  
八百屋さんですらまだトマ  
トを知らない人がいたのであ  
る。  
トマトが広まるのは昭和に  
なつてから  
辞書によれば、トマトはナ  
ス科の一年生作物で「赤ナス」  
ともいう。日本への渡米は一  
七〇八年(宝永五年)以前に  
なつてから



トマト栽培の先駆者 斉藤慶蔵

中国からと考えられている。  
初めは観賞用であったが、  
明治初期のころから食用とし  
て栽培が行われるようになって  
きた。しかし、明治から大正へ  
かけてのトマトは、まだとて  
もまずく、人々はこの赤いナ  
スビを「氣違いナス」と嫌  
い、日本人が本格的にトマト  
を食べるようになったのは、  
アメリカ種が入ってきた昭和  
になつてからとされている。  
農産物の研究家瀬古竜雄先

生(県史編さん室)によれば、  
トマトの栽培普及の状況は、  
大正十一年から十五年まで  
の生産指数を一〇〇とする  
昭和二年から六年までは三〇  
〇、昭和七年から十一年まで  
が一三〇〇と飛躍的に増大し  
ている。  
また、明治初めの新聞に載  
つた当時のトマトの食べ方は  
①三杯酢で食べる。  
②焼き物、丸のまま串にさし  
て茶色になるまで焼  
く。  
③蒸し焼き、塩、こ  
しょうで味を付け、  
かき混ぜてバターを  
加え、深皿で蒸し焼  
きにする。  
おもしろい料理法  
である。  
昨年、金巻の三軒  
の農家が水気耕栽培  
で初めて試み、おいしいトマト  
が栽培されている。時代の流  
れとははやいものである。  
〔取材協力〕  
鈴木源吾さん(善久)  
斉藤實治さん(山田)  
〔執筆〕  
宮田栄門(町史編さん課)  
黒埼町の先駆者、あるいは  
こと始めについてお知りのか  
たは、町史編さん室へご連絡  
ください。

## 農村環境改善センター、前川原ポンプ場、木場保育所 竣工式



青木町長があいさつ

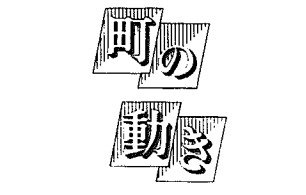


竣工式に200人

七月に農村環境改善センターが  
完成し、八月に初めての通水を予  
定している大野都市下水路前川原  
ポンプ場と既に完成している木場  
保育所を合わせて、七月二十四日  
(休)、竣工式を行いました。  
当日、会場となった環境改善セ  
ンターには、関係者約二百人が集  
まり、十一時から式典が始まりま  
した。青木町長のあいさつ、富岡

助役の工事経過報告に続いて、来  
賓から祝辞を頂きました。十二時  
から祝宴に入り、獅子舞、津軽三  
味線などのアトラクションがあり、  
一時すぎ、式を終了しました。  
ご来賓各位：県知事、衆・参議  
員(以上代理)、郡選出県議員、  
郡内町村長及び議長、議会議員、  
農業委員、自治会長、関係業者、  
他。

- 黒埼町農業協同組合…ど  
んちよう(100万円) ●第四  
銀行…ビデオ(25万円) ●大  
光相互銀行…ビデオ(25万  
円) ●池乗ミヤさん…びよ  
うぶ
- 町民手づくり庭園への庭木  
のご寄付  
●青年会議所(紅しぐれ他)  
●ブルースターズ(どうだん  
つつじ) ●永井武弘さん板  
井(五葉松) ●野崎太策さん  
(つげ他) ●茂助(庭石) ●  
保健委員会(花水木) ●大  
野町民謡愛好会(ひば) ●  
赤塚与三郎さん金巻(もみ  
じ他) ●若林操さん善久中  
(いちよう他) ●石川恵美子  
さん七区(あけぼの椿) ●  
●白井芳司さん小平方(に  
しき木他) ●白井一さん小  
平方(もみじ他) ●白井一  
鶴さん(しゃくやく他) ●  
津軽三味線木田松栄次社中  
(もちの木他)



| 大野都市下水路前川原ポンプ場   | 木場保育所  | 農村環境改善センター   |
|--|--|--|
|  |  |  |
| <p>工期/昭和50年12月~(継続事業)<br/>総事業費(61年度まで)/16億6千万円<br/>施設内容/大野、金巻、鳥原、善久<br/>の排水対策(排水面積181.5ha)とし<br/>て、前川原に函渠を取付け、ポンプ<br/>場から中の口川に排水します。8月<br/>に初めて通水させ、大野、善久の一<br/>部浸水地域の解消を図ります。</p> | <p>工期/昭和60年9月~61年3月<br/>総事業費/1億7648万7千円<br/>施設内容/鉄筋コンクリート平屋建<br/>て、建物面積784㎡、敷地面積2428㎡。<br/>老朽化した木場保育所(昭和32年設<br/>置)が県道にかかるため、移転新築。<br/>保育室4、プール、遊戯室など。定<br/>員90名。4月から児童を保育しています。</p> | <p>工期/昭和59年8月~61年7月<br/>総事業費/3億1358万4千円<br/>施設内容/鉄筋コンクリート2階建<br/>て、延べ面積1297㎡、敷地面積2717㎡。<br/>400人収容の多目的ホール(軽スポー<br/>ツ可)、視聴覚室、会議室、保健室、<br/>農事研修室及び町民手づくり庭園を<br/>備えた総合的なコミュニティ施設。</p> |

## 入札結果から

| 工事名                              | 工事業業者                  | 請負額           | 入札日   | 完工期限  |
|----------------------------------|------------------------|---------------|-------|-------|
| 前川原ポンプ場<br>建築(設備)工事              | 五洋建設(株)<br>北陸支店        | (千円)<br>9,700 | 5月17日 | 8月30日 |
| 大野1号幹線函渠<br>取付工事                 | (株)新 潟<br>広 瀬          | 5,500         | 5月17日 | 7月25日 |
| 大野都市下水路、前川原、大野<br>2号幹線函渠地質調査業務委託 | (株)オリジナル設計<br>事務所新潟事務所 | 950           | 5月17日 | 6月30日 |